

全員登録者数の実績							
(数値:名)							
種 別	小学生	中学生	高校生	高 専	大学生	一 般	合 計
平成15年度	16,739	370,521	90,116	216	6,654	49,417	533,663
平成14年度	16,654	370,570	87,409	247	6,255	49,083	530,218
平成13年度	11,448	350,556	83,864		6,299	48,683	500,850
平成12年度	9,483	329,026	82,644		6,012	48,343	475,508
平成11年度	8,826	321,317	77,818		4,663	47,347	459,971

平成15年度会員登録数

	支部名	一般		小学生		中学生		高校生		高専		学 連		合 計	
		団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
1	北海道	179	2,648	15	442	230	7,630	160	3,709	1	4			585	14,433
2	青 森	55	729	14	143	110	4,734	48	1,158					227	6,764
3	岩 手	68	1,560	23	421	156	6,293	86	2,612	1	20			334	10,906
4	宮 城	74	753	14	232	195	8,666	95	2,594					378	12,245
5	秋 田	26	500	6	148	81	3,904	50	1,414					163	5,966
6	山 形	32	627	15	405	74	4,017	49	1,450					170	6,499
7	福 島	62	696	26	493	164	8,254	82	1,980					334	11,423
8	茨 城	52	706	7	247	194	12,654	85	1,991	1	46			339	15,644
9	栃 木	49	640	9	316	154	9,677	52	1,239					264	11,872
10	群 馬	50	1,070	14	746	167	9,995	55	1,554					286	13,365
11	埼 玉	265	4,642	26	1,325	575	21,195	218	4,704					1,084	31,866
12	千 葉	132	2,077	17	585	348	19,744	130	3,343					627	25,749
13	東 京	136	2,881	13	432	247	9,717	246	4,011					642	17,041
14	神奈川	130	1,540	10	406	356	19,927	141	3,096					637	24,969
15	山 梨	36	406	12	315	84	3,483	34	1,049					166	5,253
16	新 潟	73	1,206	19	528	145	5,144	71	1,615					308	8,493
17	長 野	24	669	11	241	47	2,418	77	1,863					159	5,191
18	富 山	22	503	13	349	66	3,219	32	1,106					133	5,177
19	石 川	63	778	21	462	81	4,528	50	1,101	2	47			217	6,916
20	福 井	40	684	5	168	45	2,154	19	634					109	3,640
21	静 岡	124	1,499	15	598	362	16,774	92	1,788					593	20,659
22	愛 知	130	2,707	15	675	323	21,819	155	6,224					623	31,425
23	三 重	47	628	12	346	171	8,368	52	1,378	1	16			283	10,736
24	岐 阜	57	970	20	779	258	9,036	55	1,913					390	12,698
25	滋 賀	28	583	13	388	87	3,988	42	1,777					170	6,736
26	京 都	96	998	19	528	153	8,711	59	1,470					327	11,707
27	大 阪	100	2,060	14	370	309	16,639	190	3,105					613	22,174
28	兵 庫	76	1,414	13	186	324	22,791	161	5,313					574	29,704
29	奈 良	37	905	9	231	71	3,097	34	1,040					151	5,273
30	和歌山	57	680	6	246	123	5,588	40	1,144					226	7,658
31	鳥 取	21	392	21	414	57	2,341	29	667					128	3,814
32	島 根	49	500	8	293	57	2,446	42	953					156	4,192
33	岡 山	72	606	11	268	155	8,597	77	2,573					315	12,044
34	広 島	110	1,326	20	323	219	9,766	101	2,357					450	13,772
35	山 口	67	978	7	293	142	7,239	72	1,966	2	57			290	10,533
36	徳 島	28	476	7	151	103	3,024	32	694	1	26			171	4,371
37	香 川	24	324	5	152	58	3,291	32	791					119	4,558
38	愛 媛	38	493	8	144	114	5,206	78	1,272					238	7,115
39	高 知	29	304	8	172	52	1,549	32	607					121	2,632
40	福 岡	55	666	11	185	221	12,188	98	2,336					385	15,375
41	佐 賀	30	355	11	245	77	3,814	42	870					160	5,284
42	長 崎	41	1,069	6	170	166	7,456	110	2,354					323	11,049
43	熊 本	72	1,145	10	181	158	5,820	67	1,556					307	8,702
44	大 分	47	706	12	220	110	3,424	35	714					204	5,064
45	宮 崎	61	699	16	284	152	2,908	45	1,054					274	4,945
46	鹿児島	92	1,202	30	347	218	6,093	93	1,341					433	8,983
47	沖 縄	31	405	9	146	32	1,195	34	636					106	2,382
48	日本学連											503	6,654	503	6,654
50	日本連盟	1	12											1	12
	合 計	3,188	49,417	626	16,739	7,791	370,521	3,679	90,116	9	216	503	6,654	15,796	533,663
	昨年度	3,370	49,083	599	16,654	7,617	370,570	3,705	87,409	16	247	434	6,255	15,741	530,218

(平成16年3月31日現在)



第 9 号 平成16年7月20日発行

財団法人 日本ソフトテニス連盟

120周年



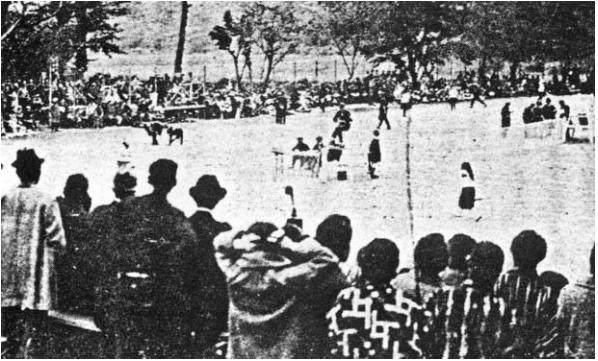
▲大正10年 島根県津和野高等学校校(『週刊朝日』より)



▲大正14年 前衛練習



▲大正10年頃の女学校(『週刊朝日』より)



▲大正14年「第2回明治神宮大会」女子競技(戸山学校コート)



▲大正14年「女子実業団大会」の優勝者



▲竹久夢二「思い出草」より

ソフトテニス創始120周年(連盟創立80周年)のご案内

財団法人 日本ソフトテニス連盟 会長 海 部 俊 樹

120周年を迎えたソフトテニス

日本のソフトテニスは、明治17年(1884年)に当時我が国体育界の先覚者であった坪井玄道氏らによって東京高等師範学校(現筑波大学)において行われたのが始まりとされており、本年(平成16年)に記念すべき120周年を迎えます。ソフトテニスは、明治の初期に日本に伝来した近代テニス(ローンテニス)を基に、日本独特のゴムボールを使用するテニス(軟式テニス)が考案されたものであり、その後先駆者達の努力によって全国津々浦々まで普及されました。

80周年を迎えた日本ソフトテニス連盟

大正13年(1924年)4月に日本軟球協会が設立されました。この期に協会は、全国に会員募集を進める一方、競技方法をオープン・トーナメント式として全日本選手権大会、中学校、女学校の選手権大会などを開き、入賞者の表彰とともに、女子選手権大会を開催するようになりました。以後80年にわたって協会(連盟)を中心にした普及を進めてきたわけですが、昭和49年には財団法人化を図り、現在では生涯スポーツとして小学生から高齢者までの幅広い年齢層のプレーヤーを持ち、日本における最も競技人口の多いスポーツの一つとなっています。

連盟事業の概況および国内外の普及事業

(財)日本ソフトテニス連盟は、我が国におけるソフトテニス界を統括し、代表する団体として(財)日本体育協会および(財)日本オリンピック委員会に加盟し、ソフトテニスの普及振興を図り、もって国民の心身の健全なる発展に寄与するため(財団法人日本ソフトテニス連盟寄付行為第4条)に加盟の各都道府県連盟、日本学生ソフトテニス連盟、全国高等学校体育連盟ソフトテニス専門部や日本中学校体育連盟ソフトテニス専門部とともに毎年公式大会の開催、研修会、講習会などの普及活動や海外普及活動のほか、競技力向上のための諸活動、広報活動など各種の事業を行っています。特に、今後はあらゆる年齢層を繋ぐ一貫指導体制を確立し、一層の競技力向上を図る所存です。

国際的には日本のほか、韓国、中華台北で早くから親しまれてきました。1955年にこの3国でアジアソフトテニス連盟が結成されて、翌年に台北市において初めてのアジア大会が行われました。その後日本ソフトテニス連盟を中心とする海外普及活動によりその他の国においても次第にソフトテニスが行われるようになり国際ソフトテニス連盟が結成され、1975年には第1回世界選手権大会がアメリカ、ハワイ州で行われました。昨年11月には広島市で第12回世界選手権大会を、5大陸・30か国から282名の選手・役員の参加を得て開催しました。

現在、2004年第5回アジア選手権大会(タイ・チェンマイ)、2005年第4回東アジア競技大会(マカオ)、2006年第15回アジア競技大会(カタル・ドーハ)、2007年第13回世界選手権大会(韓国)の開催が予定されており、順次その準備が進められています。

記念事業の実施

平成16年(2004年)は、ソフトテニス創始120周年、連盟創立80周年に当たりますので、これまでソフトテニスの発展に寄与された多くの方々に感謝し、かつ、伝統あるソフトテニスをさらに魅力あるスポーツとするため、別記の通り記念事業を計画いたしました。

つきましては、これらの記念事業をより盛り上げりのあるものにするため、関係者の皆様のご支援をお願いするとともに、一人でも多くの方々が計画に参加いただけるようお願い申し上げます。

ソフトテニス創始120周年(連盟創立80周年)記念事業

月	日本連盟が実施する事業・周知活動	支部(都道府県連盟等)が実施する事業・周知活動
	・記念式典準備 ・記念誌作製準備	
6月	・ソフトテニス創始120周年(日本連盟創立80周年)案内 ・記念事業の案内 ・周知用ロゴ作成	・支部・地域協会等主催大会プログラムなどでロゴを活用
7月	・会員報による広報(第9号発行) ・ポスター、ちらしによる広報(ソフトテニスの日) ・ポスターによる広報(全日本選手権大会) ☆NHK報道(全日本選手権大会時にアピール) 10月3日(日)15:45～16:45 NHK教育テレビで放映 ・ガオラ報道(各番組で周知) ・ソフトテニスの歌発表(CD制作) ・ホームページによる広報	・支部の団体・会員へ会員報を配布 ・大会会場、学校などへソフトテニスの日のポスター・ちらしを掲示・配布 ・大会会場、学校などへ全日本選手権大会のポスターを掲示
11月	全日本大会による広報〔冠(記念)事業として実施〕 ソフトテニス創始120周年記念事業 (日本連盟創立80周年) ・全日本小学生選手権大会 ・全日本実業団選手権大会 ・全日本シニア選手権大会 ・全日本社会人選手権大会 ・全日本ジュニア選手権大会 ・日本リーグ ・全日本クラブ選手権大会 ・日本実業団リーグ ・プログラム ・ポスター ・ソフトテニスの歌 ・会員報 ・横断幕・三角ボード	〔冠(記念)事業として実施〕 ソフトテニス創始120周年記念事業 (日本連盟創立80周年) ・ソフトテニスの日(10月第1週日曜日) ・県選手権大会等 ・プログラム ・ポスター ・ソフトテニスの歌 【ロゴマーク】  (財)日本ソフトテニス連盟
12月	12月4日(土)記念式典・品川プリンスホテル 記念誌発刊・配布	・記念誌配布

15年度事業報告(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

- 選手強化育成に関する事業
(1)ナショナルチーム強化合宿 男子6回・女子6回
(2)ジュニア選抜強化チーム強化合宿 男子2回・女子2回
(3)強化スタッフの各種大会派遣 7大会
- 指導者養成に関する事業
(1)全国中学生指導者研修会の実施
(2)C級コーチ養成専門科目講習会の実施(受講者33名)
(3)地域スポーツ指導者養成事業の実施(C級4会場／受講者124名)
- 地域グループ育成に関する事業
※各支部に対し、会員登録(一般)の10%を還元し、地域クラブ・ジュニアクラブの育成等の充実を図った。
- 国内競技会に関する事業(主催共催大会の実施)
5. 地域における競技会に関する補助事業(開催に対しての補助)
- 公認審判員制度に関する事業
(1)マスターレフェリー54名・マスターアンパイヤー46名を認定
(2)1級新規113名・更新297名を認定
(3)2級新規4,909名・更新4,748名・高校生14,533名を認定
(4)ジュニア11,931名を認定
(5)1級審判員の検定会2会場・研修会9会場・伝達講習会2会場の実施
※伝達講習会は競技規則改訂に伴い、東・西日本に分け、支部推薦1級審判員2名の参加のもと、実施した。
- 技術等級制度に関する事業
(1)名誉指導員243名を認定
(2)各技術等級(EX～4級)6,130名を認定
- 用具・施設の公認に関する事業
(1)ラケット証紙498,070枚・ネット証布4,200枚を頒布
(2)5社44種類のラケットを公認
- 広報に関する事業
(1)機関誌毎月1回の発行(支部購読1,681名・個人購読432名)
(2)主要大会のテレビ放映の実施(スポーツ衛星放送ガオラのレギュラー番組放送)
(3)全日本選手権大会のNHK教育テレビで全国放映の実施
(4)平成14年度の大会記録集を作成し、支部・報道機関へ配布
(5)ホームページの継続
- 各種表彰の実施
- 国際競技大会への代表選手団等の派遣
(1)第12回世界選手権大会(日本・広島市)
(2)第11回日・韓・中ジュニア交流競技会(韓国・チェジュ市)
(3)第3回チャイニーズカップ国際ソフトテニス大会(上海…SARSにより中止)
- 国際普及の促進に関する事業
(1)海外長期滞在指導者を派遣
(2)ヨーロッパジュニア交流大会にジュニアチームを派遣
(3)イタリア・ハンガリーにジュニアチームを派遣
(4)ヨーロッパ各国への普及指導
(5)用具・用品の支援(ラケット19ヶ国・ボール21ヶ国)
- 国際大会の開催促進に関する事業
(1)第4回東南アジアソフトテニス選手権大会開催(インドネシア・ジャカルタ)を支援
(2)2004年第5回アジア選手権大会の実施に向けて、タイチェンマイを視察
(3)2005年マカオ東アジア競技大会ソフトテニス競技実施を促進
・マカオ関係者を招聘・マカオへの指導者派遣・マカオからの研修生受け入れ
(4)2006年第15回ドーハアジア競技大会ソフトテニス競技実施に向けて視察

15年度一般会計収支決算報告

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.分担金収入	135,660	1.事業費	188,300
(1)支部分担金	7,500	(1)大会視察費	1,257
(2)会員登録料	97,910	(2)指導要領等作成費	562
(3)維持会費	30,250	(3)医科学研究費	1,127
2.事業収入	170,894	(4)審判検定会・研修会	2,346
(1)大会参加料	170,894	(5)地域グループ育成費	17,952
(2)出版物収入	29,118	(6)大会開催地関係費	30,382
(3)用具検定費	32,405	(7)地域大会補助費	2,152
(4)公認審判認定料	68,322	(8)大会役員関係費	3,499
(5)技術等級認定料	19,055	(9)其他大会関係費	1,228
3.補助金収入	4,133	(10)公認審判関係費	38,073
(1)協賛金	10,550	(11)技術等級関係費	10,074
(2)寄付金	550	(12)用具施設証作成費	940
4.雑収入	4,064	(13)広報活動費	49,612
(1)預金利息	0	(14)表彰費	5,488
(2)広告料	2,420	(15)国際関係費	23,608
(3)その他収入	1,644	2.管理費	85,068
5.繰入金収入	29,955	(1)人件費	36,246
(1)募金会計	3,955	(2)会議費	11,361
(2)国際大会積立金会計	26,000	(3)一般管理費	30,240
当期収入合計	355,256	(4)運営費補助	7,221
前期繰越収支差額	48,219	3.加盟費	557
収入合計	403,475	4.繰入金支出	76,166
		5.予備費	0
		当期支出合計	350,091
		当期収支差額	5,165
		次期繰越収支差額	53,384

15年度助成事業特別会計収支決算報告

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.日本体育協会	5,265	1.日本体育協会	9,782
2.日本オリンピック協会	2,197	(1)都道府県対抗中学生大会	3,246
3.スポーツ振興基金	14,533	(2)公認コーチ養成講習会	3,422
4.くじ助成	2,621	(3)地域スポーツ指導者養成講習会	2,136
5.その他の助成	650	(4)団体役員派遣費	978
6.大会参加料	1,920	2.日本オリンピック委員会	19,678
7.機関誌関係	10,488	(1)競技力向上費	19,678
8.雑収入	19	3.スポーツ振興基金	51,900
9.繰入金収入	60,366	(1)競技力向上費	9,690
当期収入合計	98,059	(2)全日本小学生大会	12,041
前期繰越収支差額	0	(3)開催費国際大会	30,169
収入合計	98,059	(4)国際大会開催費	0
		4.くじ助成	15,389
		(1)指導者研修会	981
		(2)機関誌関係費	12,845
		(3)ドーピング検査費	1,563
		5.その他の助成	1,310
		当期支出合計	98,059
		当期収支差額	0
		次期繰越収支差額	0

会員登録料に関する使途概要(平成15年度)

会員登録料の使途は主として
1.国際性向上
2.競技性向上
3.競技力向上
4.大衆化促進
5.広報活動強化
等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、学連・高体連への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。具体的な金額は一般会計や特別会計のなかで従来からの支出科目に組込まれているため、かならずしも明確な仕訳になっていませんが、登録料を原資にした補充額は平成15年度は概ね次のとおりでした。
(国際性 21,000千円)
・欧米を中心とする普及 6,100千円
・国際大会振興補助費 3,700千円
・国際普及用、用具用品購入費 1,200千円
・国際大会派遣費他 3,000千円
・国際大会積立 7,000千円
(競技性 13,400千円)
・大会開催地関係費・地域大会補助費 6,300千円
・全日本小学生大会・都道府県中学生大会 7,100千円
(競技力 14,200千円)
・選手強化費(ナショナル・ジュニアナショナルチーム合宿) 12,900千円
・公認コーチ養成専門科目講習会関係費 600千円
・医科学研究費 700千円
(大衆化 11,900千円)
・地域グループ育成費(各支部へ社会人登録料の5%還元) 2,500千円
・ジュニアクラブ育成費(各支部へ社会人登録料の5%還元) 2,500千円
・ソフトテニスの日・支部レディース大会 4,000千円
・審判・指導者養成費 2,900千円
(広報 23,400千円)
・テレビ放映関係費(番組制作費・放映料)
NHK全日本大会の放映・衛星放送ガオラでの毎月レギュラー番組提供の一部 15,700千円
・ポスター等作成費(ソフトテニスの日・全日本選手権大会) 1,600千円
・インターネット関係費(サーバー管理・システム構築) 5,000千円
・会員報作成費(年2回) 1,100千円
(傷害補償 1,800千円)
・傷害補償給付金等 1,800千円
(その他 12,200千円)
・学連への還元(大学生登録料の50%) 1,900千円
・高体連への還元(高校生登録料の10%) 4,800千円
・会員登録事務費 5,500千円

平成15年度会員傷害制度事故実績

本連盟独自運営の傷害補償制度の15年度給付状況と主な傷害内容は、次のとおりでした。

事 故 件 数	46件 (42件)・22支部 (23支部)							
支払保険金	1,799千円 (1,374千円) ()内は平成14年度実績							
傷 害 内 容	一般	大学生	高校生	中学生	小学生	レディース	シニア	計
アキレス腱断裂	9	0	0	0	0	6	0	15
アキレス腱損傷	0	0	0	0	0	1	0	1
骨折	3	0	3	0	0	2	0	8
靱帯損傷	4	0	0	0	0	2	0	6
肉離れ	3	0	0	0	0	1	0	4
半月板損傷	0	0	0	0	0	2	0	2
捻挫	3	0	1	0	0	2	0	6
その他	2	0	0	1	0	1	0	4
計	24	0	4	1	0	17	0	46

充分なウォーミングアップで事故を防止し、ソフトテニスを楽しんで下さい。万一傷害にあわれた場合には、本連盟にお問合せ下さい。
なお、補償内容・給付金請求の手続き方法については日本ソフトテニス連盟ホームページの「日本連盟情報」に記載されております。